

ふれあい鷺山

鷺山校区コミュニティー誌

第61号

2024年3月31日

発行

鷺山自治会連合会

鷺山まちづくり
協議会

二十歳のつどい

鷺山自治会連合会



二十歳のつどいの写真は、左上QRコードからご覧いただけます。

鷺山校区 二十歳のつどい 謝辞

本日は、私たちの人生の節目にあたって、このようないいな会を開いて頂き、誠にありがとうございます。また、本日ご来賓の方々、自治会長様、多くの方々より励ましの言葉を賜りまして、平成27年度卒業生を代表し、心より感謝申し上げます。

今までの20年間を振り返ると、嬉しいことや悲しいこと、時には辛い思いをしたことなど、たくさん出来事が思い出されます。それらを乗り越えて成長することができたのは、いつも私たちを支え、見守り、励ましてくれた家族、友人、地域の皆様のおかげだと大変感謝しております。私たちは現在、学生として勉学に励む者や社会人として働く者など立場は様々ですが、それぞれ充実した人生を歩んでいることと思います。様々な制限が解除され、かつての暮らしが戻りつつある今、初めての経験に戸惑いながらも努力を積み重ねています。この先どのような困難に直面しようとも、この地で培った知識や経験を糧に、責任ある大人としての自覚をもち、社会に貢献していきます。

最後になりますが、これまでの20年間を見守り、支えてくださった家族、諸先生方、また本日の式典を開催してくださった自治会の皆様に改めて感謝申し上げると共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、謝辞とさせて頂きます。

令和六年一月七日 参加者代表 大洞 栄貴

地域コミュニティ情報サイト「さぎ山の広場」では、掲載情報を募集しています！
地域の出来事、募集情報等があれば sagiyama.machizyou@gmail.com にご連絡ください。



「おはようございます」「行ってらっしゃい。今日もがんばってね」私たち鷺山青少年育成市民会議では、「地域づくり」の基本である「人と人とのつながりづくり」のために、日々のあいさつはとても大切だと考えております。そこで、「鷺山あいさつの輪・和・環」と合言葉とし、さわやかなあいさつがあふれる地域をめざして、7月・12月・3月の3回にわたり、自治会連合会や地域の各種団体の皆さんと共に、鷺山小学校のあいさつ運動に参加してきました。

あいさつ運動を
始めました

A vertical banner with a blue background. On the left, the text '鷺山青少年育成市民会議だより' is written vertically in blue and green. On the right, the text '第13号' is at the bottom. The background features a sunburst on the left, a rainbow on the right, and green leaves at the top and bottom.

を通りづくりづくり
ステップステップ
まずは、まずは、
さようなさような
からあいからあい
ますます
ますます
次に、次に、
かすばらかすばら
敵だね「敵だね「
さすがださすがだ
りしさをりしさを
そして、そして、
つた?」「つた?」「
た?」「と
葉をかけ葉をかけ
することすること
は、あなは、あな
切に思つ切に思つ

「挨拶」の文字には「押して開く」「互いに心を開いて近づく」、「拶」の文字には「迫る」「すり寄る」という意味があります。まさに、あいさつを交わすことで相手との距離を縮め、あいさつをする側もされる側も心を開き、良好な人間関係を築くことができるのです。

さて、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、鷺山青少年育成市民会議の活動も本格的になつてきました。乳幼児を対象とした「親子ふれあい教室」や「さぎつ子くらぶ」では、子育て中の親子の皆さんが、積極的に交流して仲を深めることができたようです。高校生・大学生による「鷺山まちづくり活動グループ」の皆さんは、「鷺山夏祭り大会」や「二十歳のつどい」などで、地域の担い手とし

ていいよ」――あなたが困つた時には、いつでも助けることができるよ」というサインを送ることができます。このような心と心をつなぐ魔法の言葉である「あいさつ」を、日々の暮らしの中で鷺山の地域に広めていきたいのです。



て大活躍をしました。また、小・中学生の皆さんは、「鷺山夏祭り大会」や「鷺山校区市民大運動会」など地域活動に積極的に参加し、地域住民の皆さんと共に楽しむことができました。さらに、中学生の皆さんは、地域行事をボランティアとして支え、多くの生徒の皆さんが人の役に立つ喜びを感じてくれたようです。

さらに、鷺山小学校の学校園有効活用プロジェクト「ミニトマト栽培」では、子ども達が野菜作りに親しみ、生命尊重の心を育みました。青山中学校の「中学生からのハローワーク」に参加し、生徒にボランティア活動の意義や良さを伝えることができました。こうした活動を通して、

「親子でふれあい遊び」

第2回 「乳幼児の救命講習」

第3回 「ぎふ木遊館で遊ぼう」

第4回 「クリスマス会」

第1回及び第4回は、贅山保育所の先生による、大きなミッキー・マウスの人形を使った親子でスキンシップを楽しむ体操や、パネルシアター、大きな絵本に子

今年も鷺山青少年育成市民会議、岐阜市社会福祉協議会鷺山支部共催で「親子ふれあい教室」が開催されました。

親子ふれあい教室を 通して地域で 子育て支援

鷲山に住む青少年が、日々安心して自分らしく過ごすことができるよう、これからも精一杯努めてまいりたいと思います。地域住民の皆様には、ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



ども達は夢中でした。また牛乳パックを利用した鈴の音の鳴るボールを手作りしました。第2回は、岐阜北消防署の署員を講師に招き、乳幼児の救命講習を行いました。乳幼児に対する胸骨圧迫による心肺蘇生の方法や、AEDを使用し大人用と乳幼児用の電圧の切り替えボタンの操作方法について学びました。第3回は、学園町にある「ぎふ木遊館」で開催しました。まるで森の中にあるような施設で木の温もりに触れながら様々なおもちゃで思いつきり遊ぶことができました。今後も、このような活動をしながら地域全体で0歳児の子育てに奮闘中のお母さんやお父さんのお力になればと思っています。



青年育成部会では、本年度高校生以上の28名のまちづくり活動グループメンバーで活動を行いました。毎月第一日曜日にまちづくり活動室に集まり、11回の定期活動、研修活動を行いました。鷺山夏祭り大会ではポスター制作や、当日の準備、後片付け、露店販売にも参加しました。二十歳のつどいでは、会場設営や音響担当、メッセージボスター等の制作展示も行いました。高齢の方を対象にし

鷺山まちづくり活性化
グループを通して
青年育成部会長

鷺山スポーツ少年団には野球・バレー・ボール・バスケットボールの3団体が所属しています。日々の練習はもちろんのこと、各団体大会に出場したり、練習試合をしたりと、土日を中心には忙しく活動をしています。暑い夏も寒い冬も仲間と共に努力している子ども達の様子を見ていると、スポーツを通して日々成長していくことを実感します。ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。少年部会は、通常は各ス

スポーツ少年団も
頑張っています！
少年部会
牧浦 英子

た「ふれあい・いきいきサロン」では、ご高齢の方に耳なじみのある歌をコーラスや、楽器で演奏させていただけきました。また、お茶とお茶請けでおもてなしをし、交流を楽しむことが出来ました。

グループでは、毎年活動目標を設けて、今の時代に必要なまちづくり活動を行うことが、地域貢献・社会貢献の一つであることを意識しながら、一人一人の成長に繋げていきます。

私が社会環境部会の活動に携わり3年が経過しようとしています。最初は、右も左も分からぬ活動ではありましたが、地域の子ども達を見守る活動は、犯罪

社会環境部会の 活動を通して 社会環境部会長 矢上 貴夫



が増えている今の時代は大切だと思います。学校や地域の大人们が見守り、非行や犯罪に手を染めないよう地域の大人たちが見守り、遭わないとためにも、必要な活動であることは間違ありません。

しかしながら、近年のトラブルは、ネットトラブルが多くなつております。校区内の巡回パトロールをして、ななかか発見できることもあります。鷺山校区内には、青少年にとつて好ましくない場所や建物は、あまりありませんので、実際に巡回パトロールをして注意するよううな行為を見かけたこともあります。ただ、全くゼロかというと、そうではありません。さぎしも公園には、タバコの吸い殻が多く残つていたりしており痕跡は残されています。人の目付きにくい時間帯に隠れて吸つているのではないのかと思われます。このように情報発信によって犯罪や非行に走らないよう地域の大人たちが見守つていましよう。

最後になりますが、ネットトラブルに子ども達が巻き込まれないようにするためには、親からの子ども達

への情報モラル教育が非常に大切です。某回転寿しチエーン店で起きたようなネットにアップした不用意な動画が大事件になってしまふようなことにならないよう、しつかりと情報モラレ教育をしていきましょう。

インリーダー活動を

子ども育成部会
長屋 幸知



日頃は、鷺山校区子ども会育成会および、インリーダーの活動に関しまして、あたたかく見守つてくださりありがとうございます。今年度のインリーダーの主な活動として、鷺山で採れ

た野菜を具材にした「鷺山パン」の販売を始め、さまざまな地域の行事に参加させていただきました。鷺山校 区文化祭での鷺山パンの販売では、さつまいもをメイン具材にしたパンを、お



んさい広場の協力のもと、製作しました。具材となるさつまいもはJAぎふ鷺山支店の協力で、子ども達が苗植えから途上のお世話、収穫まで行いました。パンは米粉を使用した『もちもち食感』。用意した200個の鷺山パンは、つとていう間に完売しました。来年度も今年度の活動を基にブランディングアップしながら、地域に貢献できるよう活躍の場を広げていきたく思います。今後とも駿河山校区子ども会育成会、シンリードー生をどうぞよしくお願ひいたします。

子くらぶに
参加しませんか
育て支援部会
尾藤 ひとみ



知り合いがいらっしゃる方もみえます。そのような方が同じ歳の子ども達を通して知り合い、交流ができる場所になればと活動しています。

季節行事に合わせた内容や鷺山保育所・日光児童センターの先生に来て頂いたり、鷺山校区老人クラブ連合会の方と交流したり、JAぎふ鷺山支店でのさつまいも収穫等地域の方々と一緒に活動しています。



今年度は2回目、2年生対象に生活科の時間でトマトの袋栽培を行いました。大野校長先生にお願いし、年度初めに新2年生担任の先生と打ち合わせを行い、トマト作りはスムーズにスタートしました。今回は、昨年度の結果を参考にして、各児童に自分たちでトマトを育てていると言う意識をより深く持つてもらうため、各クラスを雨除け栽培6班、露地栽培6班に分け、班ごとに管理しました。栽培する品種は昨年好評だった「アイコ」に統一しました。

學校園有效活用

副会長

栽培のスタート… 苗の植え付けは4月24日(月)～4月26日(水)に2年生の全3組の児童に行つてもらい、続いて5月15日(月)～5月17日(水)に仕立て方、誘引の方法などを説明しました。



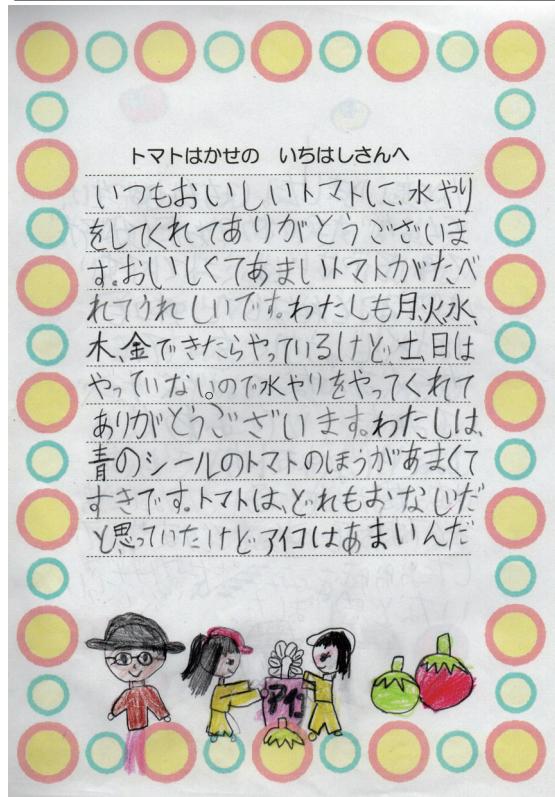
その後の管理.. 出校日のかん水その他の管理は児童に任せ、雨除けと露地栽培についてのかん水管理は、前者は500mlペットボトルの半量、後者はペットボトルの全量を施用するよう指導しました。そのほか、253日に一回程度、ボランティアがトマトの成長の様子を見て、必要な管理作業を行いました。カラスの食害、台風の襲来については、昨年度からの懸念事項でした。が、いずれの被害もなくラキーでした。

お手紙形式でもらつた各児童からの感想は、ほとんどの児童から、トマト栽培が出来た喜びと、それにに対するお礼の言葉でした。そのお手紙に書かれていた代表的な言葉を以下に羅列します。

「おうちでミニトマトそだててみたい。らいねんはおうちでそだててみたい。ま

認められませんでした。これはトマトの熟期に雨が少なく、袋栽培の甘味増強効果が大きく、雨除けの効果が出難かつたためと考えられました。

トマトの試食…トマトの生育状況を勘案し、試食と児童へのアンケート調査を7月3日(月)～11日(火)に行いました。調査の結果は予想外で、甘さ酸っぱさには屋根あり屋根なしの違いは認められませんでした。こ



たミニトマトのことおしゃべりください。トマト大大大大すきトマトの会。3年生でもトマト育てたい。なんでもトマトすきでトマトせいになつたんですか。またいっしょにトマトそだててたべたいです。こんどは

| 食味 | 屋根あり | | 屋根なし | 合計数 |
|---------|------|---|------|-----|
| あまい | 42% | < | 58% | 74 |
| すっぱい | 56% | > | 44% | 32 |
| どちらでもない | 60% | < | 40% | 15 |



ぼくのそだてたトマトあげるのではせんせいのそだてたトマトください。またきてね、だいすきだよ。トマトのことがもつといっぱいしりたいです」

これらのお手紙を読んで思ふことは、今年度はこちらの伝えたいことが良く理解され、それに応えてくれているお手紙が多いことでした。本当に教えることの幸せ、こんな機会が持てたことの嬉しさ、子ども達の思い出の中にトマト栽培の思い出を残せたことは望外の喜びです。最後に、このチヤンスを提供して頂いた鷺山小学校の先生方、そしてご協力頂いた鷺山青少年育成市民会議の皆さん、ご保護者の皆さんに感謝し、ご報告とさせて頂きます。



また、今年の競技では、新紅玉を入れの力ゴが動く『動く』が、背負つて動く中、参加者が紅白の玉を入れていくと、う競技に挑戦しました。多くの玉を入れていきました。玉をゴに苦戦しながらも、



競技の最後には、恒例の各種団体リレーです。鷺山自治会連合会、鷺山体育振興会、鷺山水防団、岐阜市北消防団鷺山分団、鷺山小学校 P.T.A、鷺山スポーツ少年団、鷺山青少年育成市民会議の皆さんがあつた。アトラクションに挑戦しながらメドレーに挑戦しました。アンカーの仮装による競争は会場を大きく沸かせました。鷺山校区市立民大運動会のフィナーレを飾つたのは、鷺山小学校の校歌に合わせて踊る『校歌ダンス』です。小学生、中学生を踊つて楽しみました。老若男女多くの皆さんがあつた。小学校のグラウンドに集まり、様々な競技に取り組み



岐阜市立鷺山小学校グラウンドにて、鷺山校区市民大運動会が開催されました。昨年度に引き続き、地区対抗種目は行わず、個人参加者のエントリーが中心となる開催方法で執り行われました。最初に、全国ラジオ体操連盟公式ラジオ体操指導員の山内香織さんの指導によるラジオ体操からスタートです。全身の筋肉をほぐして競技の際にけがをしないように準備体操もしつかり行いました。その後、鷺山小学校児童や青山中学徒による障害物競走が

行われました。様々な障害物をクリアしながら、ゴールを目指して全力で駆け抜けました。その後も、親子ボーグ運びや、パン食い競争、おやつ競争など、楽しみながら取り組める競技が続々と実施されました。楽しそうに笑顔を浮かべながら走つて行く小学生、目頃見せないような必死な様子の大人達がグラウンドを駆けていました。

ながら、楽しい交流をすることができました。準備・運営に携わつてくださつた鷺山体育振興会や鷺山自治会連合会の皆さん、お疲れ様でした。また、運営ボランティアとして参加してくれた青山中学校の生徒の皆さん、ありがとうございます。これからも地域のまちづくり活動に様々な場面で参加してくれることを願っています。

～鷺山から宇宙へ～
鷺山小学校OB
川島 桜也さん
(宇宙航空研究開発機構)
講演会

など、子ども達にもわかりやすく、身近な事柄を上げてもらいたいながら夢を叶えるために必要なポイントについために伝えて頂けました。講演終了後には、児童から質問タイムが設けられ、多くの児童の皆さんがあげて手ををして、質問を投げかけた質問を投げかけられました。宇宙服はどのようなものでできていけるのか?ロケットを発射するにはどれくらいかかるのか?本当に多くの質問に川島さんを頂き、その質問に川島さんを丁寧に回答を頂きまし

- ・ いっぱい友達と遊んで、いろいろな経験をして自分の好きなことを見つけること
- ・ たくさん勉強することで自分自身の可能性が広がること
- ・ お父さんやお母さんの手伝いをすること

とや、宇宙の謎を解き明かすため太陽系を周回していき、彗星への着陸、調査を行なうことの重要性、月や火星といつた衛星や惑星への着陸にむけて研究が進められていることについてお話を頂きました。

また、宇宙の仕事に就くまでの学生時代の過ごし方にも触れてもらい、自分自身の抱いていた夢が変わってきたことや、夢を叶えるために大切にして欲しかったことを児童の皆さんに伝えました。

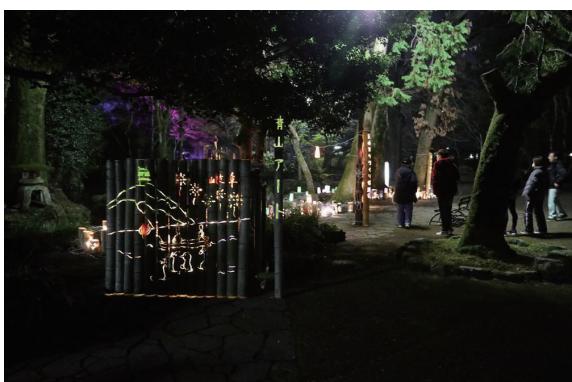


今年から3年間アメリカのN A S Aで勤務される予定です。児童からはN A S Aから戻ってきたらまたお話を聞きたいとリクエストがありました。いずれまた、驚山小学校に足を運んでくれる日が来るのを楽しみにして待つていいと思います。N A S Aに行かれてます。も、素晴らしい宇宙開発の研究に取り組まれることを祈念いたします。

竹灯籠が照らす
まちづくり



令和5年12月10日(日)にマーサ21ショッピングセンターにて、マーサスクエアにて、第3回竹灯籠グラントプリ表彰式が執り行われました。竹灯籠グラントプリにエントリーされた18作品の竹灯籠が順番に紹介され、どの作品も丁寧に作られた美しい作品でした。その中から、大竹灯籠グラントプリには、大杉真夕さんの「イルカのジヤンプ」、準グラントプリには、池田詩帆さんの「イルカの親子」、森瀬香さんの「登り鯉」、成瀬光さんの「涼しげな花」が選出されました。



校児童や青山中学校美術部生徒の皆さんが製作した竹灯籠の作品を展示しました。展示場所は、岐阜公園金華山口一ツウェイ乗り場西側に位置する池の周辺です。日が沈んでからの状況を考えながら、竹灯籠の作品を慎重に並べていきました。日没後18時以降には、竹灯籠の灯りも煌びやかに光り美しい光景を映し出していました。これからも、多くの小学生、中学生、地域の皆さんと共に、手作りの竹灯籠の光を灯し続けていきたいと思ふます。

岐阜公園の光のアート ぎふ灯り物語2021

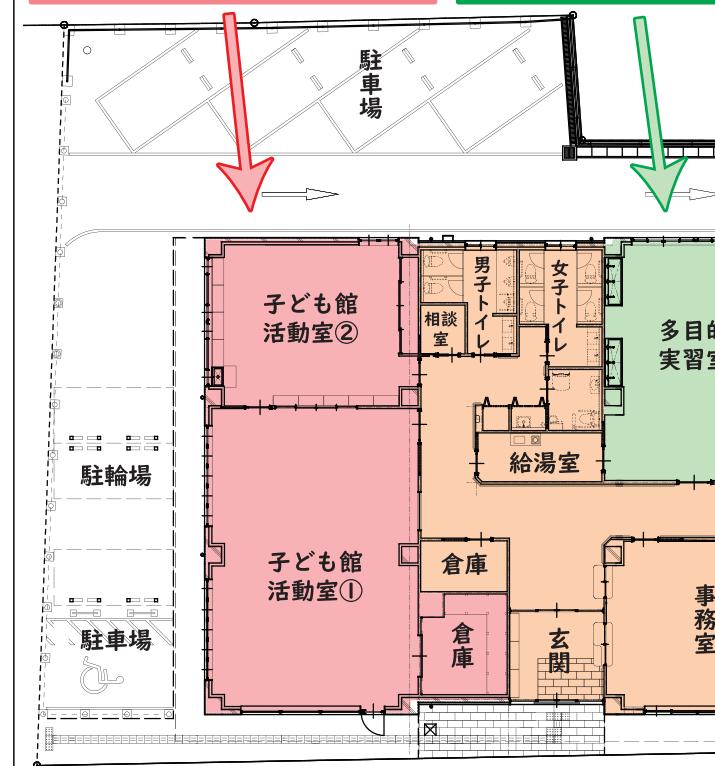
青山中学校美術部と共に 作品作りに挑戦



鷺山中株土地区画整理事業の実施に伴い、旧鷺山保育所があった場所周辺に、鷺山公民館・鷺山子ども館が合築された施設並びに鷺山中株公園の整備が進められています。今後、鷺山の新たなまちづくり拠点として役割を担うことが期待されています。

鷺山子ども館エリアでは、読書や学習をしたり、ボール遊びをはじめ体をしつかりと動かして活動が出来るエリアになります。

書道、絵画、フラワー アレンジメントなど、水を使用する活動も取り組めるように工夫されています。



100名程度の来場者が利用が出来るホールを備えパーテーション等で分割し柔軟に利用できるように工夫されています。



この鷺山中株公園は、合築施設との一体的利用を視野に入れて、連携のとれた整備が求められ、子どもたちの遊び場といふ視点だけにとどまらず、発災時の避難場所、高齢者も集まる活動の場としての視点も入れながら、意見交換を進めていきます。

今後、合築施設及び鷺山中株公園が鷺山のまちづくりの拠点として、地域住民の集う場となるように、様々な取り組みを進めていきます！

令和4年度には、鷺山公民館・鷺山子ども館合築施設の建設に向けたワークショップが開催され、設計案をとりまとめることができました。

令和5年度は、引き続い、**合築施設の西側に整備が予定されている鷺山中株公園の整備に向けて、ワークショップを開催しました。**

鷺山中株公園の整備に向けて、**ワークショップを開催！**

「避難用持ち出し袋」の準備はしていますか？また、準備をされている方も、中身の点検を行っていますか？



新型コロナウイルス感染症が5類となり通常開催が出来るとこでしたが、流行性インフルエンザの流行で単独での開催となりました。

今年度は、開催予定だった「三世代交流秋の祭典」が中止となり、鷺山公民館としては「三世代みんなでつくる秋の祭典」をテーマで開催となりました。

企画としては、例年と同様なものもあれば、新企画として体験型のキッズコートや防災講習・雑がみ回

で感染対策を最重点に置きながら安心・安全を心掛けた開催でした。鷺山小学校児童・青山中学校生徒の皆さん

幼稚園・鷺山保育所・ふぞく園園のスーパー・ヤング達の素姿が見守つてくださつていて、とても微笑ましく思いました。

企画としては、例年と同様のスタッフが関わつてくれました。各種団体・青山中学校生徒ボランティアの皆様には、来場者の方々に丁寧に接して頂きありがとうございました。

また、鷺山まちづくり協議会主催の竹灯籠グランプリ年々人気が高まりました。



それらの企画には多くのスタッフが関わつてくれました。各種団体・青山中学校生徒ボランティアの皆様には、来場者の方々に丁寧に接して頂きありがとうございました。

令和五年度
鷺山校区文化祭
鷺山公民館 館長
林 勝己

鷺山公民館だより

第95号
発行

岐阜市鷺山公民館
TEL 294-1665
鷺山公民館にご用のある方は、月曜日～土曜日の午前9時～12時に来館や問合せをお願いします。



投票された人は、作品の素晴らしいに感激されていました。鷺山文化祭の開催内容も増え充実し、多くの方を実感しています。



公民館クラブ活動について

總代表

霜
甲

英
三



私がこちらで活動させて頂くようになつたのは、当初は、鷺山公民館のクラブ活動ではなく、以前から円空彫りをやつていて、私たちで展示活動をしていましたから、鷺山校区文化祭で展示させて頂いたのがきっかけでございます。その後、鷺山公民館には、様々なクラブ活動があることを知り、その中で興味があつた『水墨画』を始めることがになりました。それから約10年前のことですが、そこで私が、公民館クラブの総代表をお引き受けしました。それから約25年が経つのですが、当時からクラブあり会員数も多



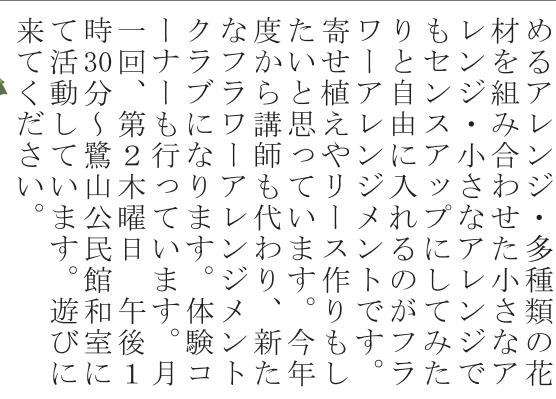
これから日本は、ますます高齢化が進み、フレイル認知症が懸念されるところです。毎日が健康で樂しく生活していくには、何か一つ「張り合い」を持つことが重要です。散歩でも買いい物、グルメでも何でもいいです。外出し人と交流したりする。趣味を持つことも一つです。人ととの交流の場、趣味を楽しむ場として、皆さん誘い合つて公民館クラブ活動に参加しましよう！

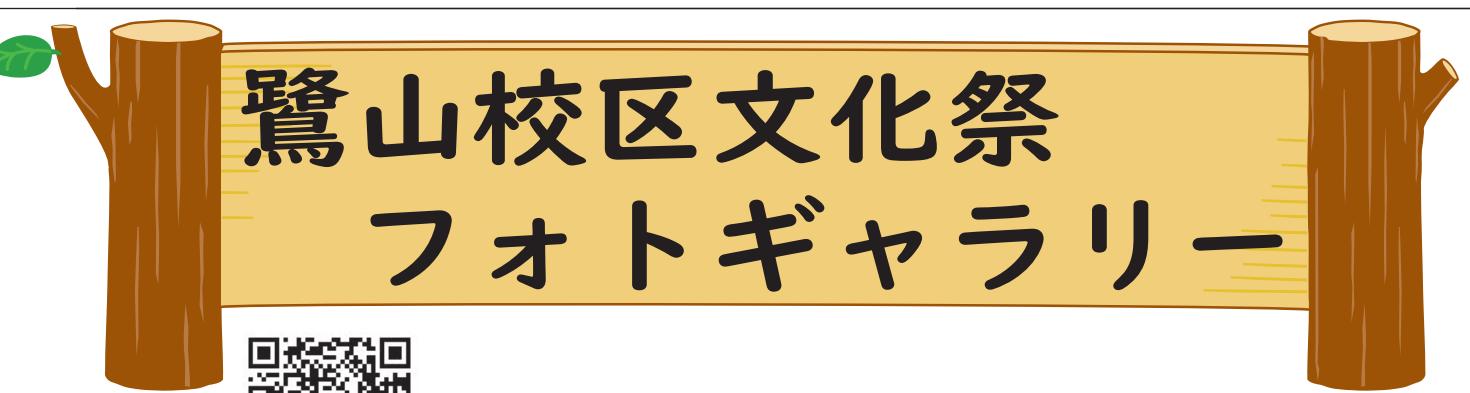
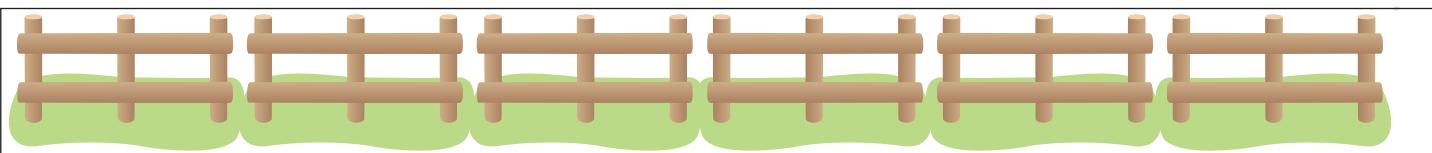
おられ、鷺山校区文化祭も
今とは違い、舞台を使つて
演芸も披露されて取り組ま
れていきました。
ところが、新型コロナウ
イルス禍で活動停止や縮小
を余儀なくされ、現在では
15クラブに減少し、会員数
も減つてきます。
原因としては、新型コロ
ナウイルス感染症の影響も
あるでしょうが、会員の高
齢化と新規会員が少ないの
が大きな要因で、個人の考
え方や趣味が多様化してき
る様に思います。

ワーレンジメントは見ることから始めます。何のお花だろうと色や形を見ます。そして香りで私達の心を優しく包んでもくれます。これからもフラワー・アレンジメントクラブは、いろいろなことに挑戦していく感を楽しいと思います。花の季節感を楽しみがてら花器を選び、花一本からでも楽し

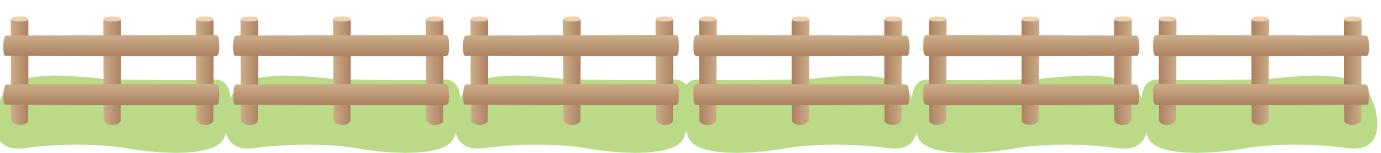
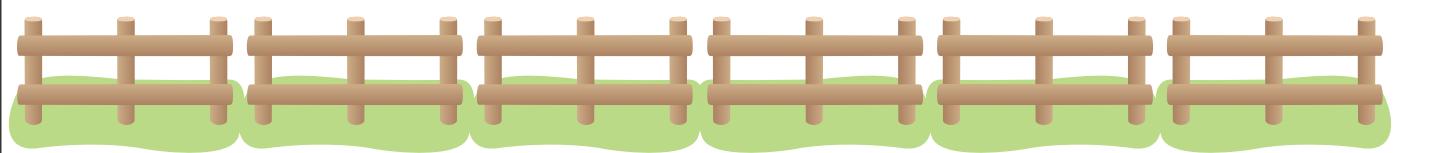


楽しい フラワー アレンジメントは 季節の行事を彩るアレンジメント、日々の暮らしの中でもお花があると心も落ちます。フラワー アレンジメントって何? おもしろい?





鷺山校区文化祭の様子は、
左のQRコードからもご覧になれます。



「あなたの個人情報が漏れている」「ウイルス対策費用が必要だから電子マネーで支払を」「還付金の期限が来ているので、今すぐATMで手続きを」

四年ぶりの開催になりました! 鷺山校区敬老会



令和5年9月18日(祝)に岐阜市立鷺山小学校体育館にて、鷺山校区敬老会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響や、昨年度の台風上陸の影響を受けて、敬老会の開催は、実に4年ぶりの開催となりました。久々の開催のため準備や運営に携わる自治会長も初めて携わる方が多く運営や準備を慎重に進めていきました。なお、この4年間で会場の設備も大きく変わった点があり、体育館には大型の空調設備が整備

暨南福祉社

第70号
発行
岐阜市社会福祉協議会
鷺山支部
TEL 231-0040



され、以前のように敬老会の式典中に来場者の皆さんが熱中症になるリスクが少なくなつたことは、運営上非常に助かる点でした。会場には、徒歩で元気にお見えになり、4年ぶりの敬老会を楽しみにしてお越しくださいました。会場北側には『鷺山まちづくり活動グループ』に所属する高校生・大学生ボランティアの皆さ



また、敬老会の式典に合わせて、今年金婚を迎えるご夫婦へのお祝いも贈られました。50年間苦楽を共にされこの日を迎えたことにお祝いを申し上げます。

んが作成された『人生の大先輩 敬老の日おめでとうございまして感謝と敬意を認めています』元気で」というメッセージの書かれた横断幕も掲げられ、来場された大先輩の皆さんへの感謝と敬意を込めたメッセージが届けられました。

敬老会冒頭では、鷺山自治会連合会 水野吉近会長から、主催者挨拶があり、連合会長就任してから初めにとなる敬老会で、皆さんへの感謝の言葉が贈られました。



童謡「うさぎとかめ」のりズムに合わせて、指体操を一緒に取り組み脳トレにも挑戦しました。演奏の最後には『ふるさと』と一緒に歌いました。敬老会最後には、鷺山商店街、正木町発展会加入店舗で使用できる商品券がプレゼントされ、抽選会を行いました。

る演技の部のスタートです
華を添えて頂いたのは、音
楽ボランティアグループの
『アンサンブルスリアン』
の皆さんです。『スリアン』
とは、フランス語で「笑顔」
という意味で、皆さんの演
奏が素敵な笑顔を届けてく
れました。来場者の皆さん
が、若き青春の時代に聞か
れた「青い山脈」「中村八
大メドレー」「浪花節」だ上
人生は」「美空ひばりメド
レー」などの昭和の名曲が
披露されました。
また、演奏の途中では、

ご協力誠にありがとうございました。



正木地区



鹭山地区



「仕事で急なお金が必要になつたので、部下が取りに行く」など、「お金」の話が出たら、それは詐欺を疑つて、家族に相談をしましょう！



緑ヶ丘地区



古川地区



清洲地区



歳末助け合い募金では 422,277円の募金が寄せられました。

大規模災害 発生時に備え 避難所開設訓練

令和5年9月10日(日)に
鷺山小学校にて、鷺山自治
会連合会役員を始め、岐阜
市派遣職員、校区内の防災
関係各種団体関係者を含め
合計33名がに参加して「避
難所開設訓練」を開催しま
した。今年度の訓練は、大
規模地震発生時に鷺山小學
校体育館を避難所として開
設する際の受付業務の流れ
を確認すること目的に行
いました。



新型コロナウイルス感染症の対策のため避難者の受け付業務の流れが変更され、それに伴いどうしたらよいのかを参加者から意見を聞いていきました。避難者カードと本人とをどのように



（コンテン）にある「災害時
浄水機」の使い方を岐阜市
都市防災部にレクチャーを
して頂きました。今後も、
地域住民の皆さんのが安心し
て暮らせるまちづくりのた
めに、防災・減災のまちづ
くりに取り組んでいきます

紐づけていくのか、行政側との情報共有をどうしていいのか、まだ決められていい事項もあり、課題も確認されました。まだまだ試行段階ですが、大規模災害発生時に速やかに対応できるよう、今後も継続して検証していきたいと考えています。開設訓練終了後、体調不良者を受け入れる避難場所(教室)や校舎内にある災害時備蓄倉庫の確認を行いました。

この日の報告会には、警
山自治会連合会の役員、岐
阜市北消防団鷺山分団、鷺
山水防団の団員、鷺山女性
防火クラブの役員が参加し
ました。岐阜市消防本部は
令和6年1月1日16時10分
に地震が発生した後、速や
かに災害現場の救助活動に
向かうために様々な資機材
車両の準備を整え、地震発

しかし、目標の救助現場
までに向かうためには、半
島特有の地形により限られ
た道路網の中、移動するこ
とを余儀なくされ、その道
路自体も地震により被害を
受けていたため、移動経路
の安全を慎重に確認しなが
らの移動となりました。ど
うしても車両が通れないエ
リアには、非常に多くの資
機材を担ぎながら徒步によ

被災された家屋の多くが全壊してしまった。家屋の耐震化の重要性が本当に感じさせられる状況でした。そのような状況の中でも、現地の被災情報、要救助者情報を確認しながら倒壊家屋からの救出活動を実施されました。今回の災害救助活動を通して山田署長からは『**自助**』『**公助**』を如何にして連携をもつて取り組むことが重要であるのか実感されましたとお話を頂きました。

また、自助、共助の取り組みとして、大規模災害団

る移動も行い、厳寒期といふこともあり除雪も行わないがらの移動となり、通常の移動時間の数倍の時間を要しながら救助現場に向かうことにござります。



と連携した防災訓練の実施について提案がありました。公助である『消防署』や『警察』『自衛隊』など、救助に駆けつけた皆さんのがより迅速に救助活動に取り組むためにも、大規模災害団員と連携して『どの場所』で『何名の要救助者』が発生しているのか把握しその情報をいち早く届けることが重要になるため、情報収集訓練の必要性について、お話をありました。今後、鷺山校区自主防災隊の防災訓練・安否確認訓練についても、プラスシユアップに向けて非常に参考となる報告会となりました。

員と連携した自主防災活動の推進が、大規模災害発生時の救助に向けた重要な役割を果す。

